

玉 都 第 1 1 2 号

平成20年10月16日

国 土 交 通 省 道 路 局 長 殿

玉野市長 黒 田



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（提出）

平成20年9月19日付け，国道企第37号で依頼のありましたこのことについて，別紙のとおり提出いたしますのでよろしくお取り計らいください。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岡 山 県 玉 野 市

狭あいな生活道路について、スムーズな車輛相互通行ができるよう、計画的な整備を実施し、地区住民の安全性、利便性の向上、確保を図る必要がありますが、日常生活に身近な市道などの生活道路の部分改良は補助対象にならない場合もありますので、今後はより生活に密着した小規模な道路についても、財源措置の充実を要望いたします。

また、既設道路についても老朽化による舗装面の悪化などにより、その経費が年々増加する傾向にあります。さらに、橋梁の長寿命化・耐震補強等これから新規に取り組んでいくべき課題もございますので、これら維持補修経費についてもより一層手厚い財源措置を要望いたします。

また、交通安全面からは、道路利用者の安全性確保を図るため、ガードレール、道路照明やカーブミラー等、交通安全施設の整備が交通事故を未然に防ぐ観点からますます重要となってきました。これらは交通安全対策特別交付金により措置されておりますが、道路照明の電気料等の管理経費等も増大していることからなお一層の充実を要望いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

②-1 地域の現状と抱える課題

岡山県玉野市

○現状

幹線道路については、国道30号の4車線化整備が完了し、主要地方道倉敷飽浦線のバイパス工事、県道槌ヶ原日比線の整備等も着実に進展しており、交通条件が向上しています。

しかしながら、市道については、未だ拡幅等の整備が必要な道路も多く、地区住民の安全性、利便性の向上、確保の面から、計画的な整備が必要となっています。

また、地震、豪雨等による災害が発生した場合において、道路は物資輸送など重要なライフラインの一つであり、その機能維持のための整備が必要となっています。

また、近年の交通環境は、車社会の急速な進展に伴う交通量の増大や高齢化に伴う高齢運転者の増加など大きく変化しています。このため、交通事故の様相も変わり、様々な交通安全対策が求められています。

そのような中、本市においても交通事故が多数発生しており、自動車のみならず歩行者や自転車利用者にも配慮して交通安全施設の整備を推進し、交通事故の未然防止を図る必要があります。

○課題

県南主要都市との連絡など、更なる利便性向上のため、国道430号を始めとする幹線道路の整備が、市内に高速道路網を持たない本市においては重要な課題となっています。

また、日常生活に身近な市道などの生活道路については、住民の安全性や利便性の維持向上のため、計画的に改良・維持補修などの整備を促進していることが必要です。

また、災害時における道路の機能を維持するため、橋梁の耐震補強などの整備についての検討も新たな課題となっています。

また、道路利用者の安全性確保を図るため、ガードレール、道路照明やカーブミラー等、交通安全施設の整備を計画的に進めていくことが必要となっています。

幹線道路の整備により，県南主要都市との連絡及び，高速道路 I C へのアクセス向上を図るとともに，住民に身近な市道等の整備，維持補修を計画的に実施し，道路の安全性，利便性を向上・維持させることにより，快適で暮らしやすいまちづくりを目指してまいります。

また，ガードレール，道路照明やカーブミラー等，交通安全施設の整備を計画的に推進するとともに，橋梁の耐震補修などを推進し，安全で災害に強いまちづくりを進めてまいります。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例，期待する効果や評価等）

岡山県玉野市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
道路の拡充・整備，そして老朽化した橋梁やトンネルの維持修繕など，住民の命と生活を支える交通網の整備充実は重要課題となっております。 財源措置の拡大を要望いたします。	山椒橋	住民の命と生活を支える交通網の整備充実の実現ができます。 安全で災害に強いまちづくりの実現ができます。	玉原企業団地（約60ha）の入り口道路にある橋梁で，大型車輛の通行量もあり，住宅地（約400世帯）の入り口でもあり整備が望まれます。 なお，当市は山間地域・島しょ地域特有な急峻な地形ゆえに，生活道路はいわば生命維持のための動脈に等しいと考えられます。 しかしながら，近年の異常気象による台風や豪雨あるいは地震などによる崩壊，浸食，決壊等の危機にさらされ，山間地や島しょ部における集落の孤立化がいつ起こっても不思議でない状況にあります。